



2007年度の機械系教室の卒論、修論テーマ

松久 寛 (機械理工学専攻 教授)

よく先輩方に「最近の機械教室ではどんな研究をしているのですか」と聞かれます。それに答えようとしても、多様化しており、自分と両隣の研究室ぐらいのことしか分かりません。そこで、今年の卒論、修論のテーマ一覧を示します。さーと眺めていただき、興味があるものに関しては、くわしくは、機械系教室のHP (<http://mech-server.mech.kyoto-u.ac.jp/>) をご覧ください。

なお、指導教員は手持ちデータの都合により修論で1名だけ載せています。これをもとに、共同研究などに開花することを願っています。

卒業論文

1	近接光源を用いた照度差ステレオ法による物体表面微細形状の計測
2	疾患弁別のための心エコー画像特徴量抽出
3	電流および電磁場中のSiナノワイヤーに対する第一原理計算
4	音波により形成された粒子風紋に関する研究
5	マイクロカンチレバー試験片を用いたTa ₂ O ₅ 薄膜の変形・破壊特性評価
6	高分解能RBSによる歪みSi(001)の酸化初期過程の観察
7	変位の一次内挿式を用いた効率的不安定性解析手法の開発
8	同時多点伝達原理を用いた駆動要素の開発
9	触媒反応ネットワークに基づく細胞モデルの力学的環境設計に関する考察
10	高分解能RBSによるイオン液体表面構造の研究
11	平面内移動機構構造に関する研究
12	成層流体中を鉛直移動する球まわりの非定常流れの可視化
13	ペルチェ素子の効率的利用を目的とした熱伝導問題に関するトポロジー最適化
14	プリミティブチェーンネットワークモデルを用いた高分子溶融体の非平衡動力学シミュレーション

15	斜め蒸着によるウイスカ生成の分子動力学シミュレーション
16	触媒燃焼を熱源とした二重細管型ジメチルエーテル改質器の研究
17	細管内を上昇する単成分気泡流における気泡成長の数値解析
18	仮想空間内の複数スイッチを提示するための遭遇型ハプティックデバイスの設計と動作計画
19	核沸騰初期過程の分子動力学シミュレーション
20	多層基板中の非線形ひずみの計測と実装信頼性
21	RGDストランスジェニックフィブロイン基質に対する軟骨細胞の接着性及び組織形成
22	トレンチ基板への高温斜め蒸着によるAlウイスカの成長
23	光の周波数掃引に対する光共振器のデジタル制御モードロッキング
24	組立知識伝達プロセスにおける電子作業標準書の効果
25	ねじり荷重を受ける薄肉梁の有効断面幅解析法
26	釣り仕掛けの動的挙動の視覚化
27	蠕動する壁面を持つ流路内流れの伝熱特性に関する研究
28	ロボット教示支援のための生態学的インタフェースの設計
29	AFM画像へのデジタル画像相関法の適用に関する基礎的研究
30	マイクロ切削加工における工具刃先運動の加工面への転写率の測定
31	凝縮器と蒸発器とが一体化したケミカルヒートポンプの作動特性
32	転がり接触拘束を利用した半球型移動ロボットの開発と制御
33	nMOSFETにおける応力効果を考慮したDC特性変動デバイスシミュレーション-デバイスの微細構造に起因した応力分布の考慮-
34	表面X線散乱法による抗原抗体反応に伴う蛋白吸着形態の精密解析
35	高配向SWCNTメンブレンの共振振動を用いた弾性定数の測定
36	磁性ナノ粒子と磁場を用いた細胞の三次元パターンニング
37	接触電位差を用いたセルフフェースアライメントプロセスのモデリング
38	イオンスパッタリングによるAu表面の島状構造の形成とその光学的特性
39	ナノらせん要素配列薄膜端部における破壊特性評価およびナノ構造体の分類
40	操作応答特性に着目した自動化機械のモード認識支援
41	新規蛍光性ナノ粒子による1価抗原結合ドメインの標識法の開発
42	複雑なシステム最適化における有益な方法論の構築
43	力学刺激に対する単離骨系細胞間のカルシウム応答伝播特性
44	Alナノワイヤーの水素被覆に関する理論的研究
45	人工関節用摺動部材ポリエチレンの放射線照射効果に関する研究
46	単一細胞操作用マイクロチップの開発とフェムト秒レーザーによる生体膜展開
47	元素添加したMgO薄膜の放電特性に関する研究
48	アクチン重合による細胞移動シミュレーション
49	小径エンドミルを用いたマイクロ切削加工に関する研究
50	シールレス平板型SOFCの発電性能評価実験
51	市場ニーズを考慮した製品設計支援システムの構築

52	高精細非接触スキャナの開発と評価
53	PbTiO ₃ ナノワイヤの強誘電特性とひずみの影響についての第一原理解析
54	磁気相互作用を利用したサブミクロン可動構造の作製
55	粘弾性壁を有するマイクロ流路の脈動流れ特性評価と電気等価回路モデルの構築
56	歳差回転球体内流れの安定性
57	隣接噴流列のステレオPIV計測と流動特性に関する研究
58	側壁が振動する開水路の長波に関する研究
59	風波乱流場に及ぼす降雨の影響
60	乱流混合の定量化
61	原子間スピン相互作用に関する理論的考察
62	自己組織化を利用したステンレスナノニードルの作製
63	電流中のAlナノワイヤーの電子状態に関する理論的考察
64	ハイブリッドダイナミカルシステムによるモード誤認識の事前分析
65	高温用耐酸化コーティングした分光機能性薄膜系エミッターの特性評価
66	生体適合性高分子ゲル薄膜の相転移に伴う膜構造変化に関する研究
67	ナノ粒子アSEMBL技術を用いた局在表面プラズモン共鳴型バイオセンサ
68	高精度加工機の振動解析
69	多孔質壁材料の吸放湿特性の測定
70	カオス力学系におけるパッシブベクトルの方向場
71	Flamelet法を用いた液相反応乱流場のLarge-Eddy Simulation
72	予測区間の分割・統合を導入した需要予測のための予測市場システム
73	関心空間の活用に関する生態学的考察-ユーザ行動に応じたアウェアネス情報の提供-
74	励起ネオン原子の原子衝突による偏極緩和分光測定
75	平面内移動機構の運動特性に関する研究
76	制約つき最適化問題におけるParticle Swarm Optimizationの適用とそのシステム化
77	マイクロ流路内流れを利用した赤血球選別に関する研究
78	人工膝関節用UHMWPEの凝着摩耗に及ぼすdl- α -tocopherol添加の影響
79	発電デバイス用マイクロコイルの作製
80	液滴の蒸発に及ぼす湿度の影響
81	砕波を伴う風波乱流場における巻き込み気泡の諸特性
82	離散値入力型制御のための動的量子化器設計ツールの開発と実験検証
83	歯牙切削における超音波加振効果の研究
84	はりに貼付した圧電素子の電気機械結合係数向上に関する研究
85	戦略適合性を考慮した改善活動の計画支援に関する研究
86	MRダンパを用いたばね並列型セミアクティブ振動制御
87	非球形粒子の分散を伴う固液二相流に関する実験的研究
88	配向した微視構造を有するHAp/高分子量PLLA複合材料の変形・破壊特性に及ぼす加水分解の影響

89	粒界特性と水素濃度が水素拡散挙動に与える影響の分子動力学解析
90	Particle Swarm Optimization に基づくシステム同定
91	成層乱流中のパッシブスカラー輸送に与える分子拡散の効果
92	多孔性培養担体における細胞挙動定量評価の試み
93	ヒト椎体海綿骨のリモデリングシミュレーション
94	イオン液体への貴金属の真空蒸着
95	PS3による分子動力学計算のための高速アルゴリズムの開発
96	オペレータの筋骨格系を考慮したマスターアームの操作性
97	分岐-噴出し流路による流体積層型マイクロミキサーに関する研究
98	適応制御による無人ヘリコプタの自律飛行制御
99	有限要素法によるSiC単結晶成長過程の応力解析
100	1分子追跡法によるブラウン粒子の一時停留検出法の開発: 検出器の時間分解能の効果
101	時間領域有限要素法を用いた圧電薄膜駆動単結晶シリコン振動子の振動特性解析
102	LHDにおける中性水素原子分子発光線の強度測定
103	プラズマ処理が圧電薄膜に及ぼす影響に関する研究
104	SOFCの発電性能に及ぼすカソード電極メゾ構造制御の影響
105	フッ化カルシウム単結晶育成過程の熱応力解析と残留応力評価
106	操舵反力提示における運転者の知覚特性に関する基礎的考察
107	相互理解不能性を前提とした対話型意思決定支援の拡張に関する考察
108	氷砂糖破壊時のトライボルミネッセンスの分光測定
109	四輪アクティブ操舵車両の基本的な運動特性

修士論文

修論題目 (H19年度、機械系)

指導教員

1	半空間における定常蒸発・凝縮流に対する境界条件の影響	青木 一生
2	温度場によって誘起される自由分子気体流: Cercignani-Lampis境界条件に基づく数値解析	青木 一生
3	退色挙動のモデル化と原色推定手法の確立-日本画材料を用いた文化財への応用を目指して-	井手 亜里
4	マルチバンド画像を用いた材料分析方法の構築	井手 亜里
5	デジタル画像解析を用いた絵画の顔料同定及び表面形状復元に関する研究	井手 亜里
6	成層流体中を鉛直移動する球まわりの流れ	木田 重雄
7	不安定周期流を用いたクエット乱流の混合解析	木田 重雄
8	歳差回転球体内のスーパーローテーション流	木田 重雄
9	歳差運動球体内部の流線構造	木田 重雄
10	微小負荷試験によるナノ要素配列薄膜の変形特性評価	北村 隆行
11	予き裂導入試験片を用いたTa ₂ O ₅ ナノらせん要素配列薄膜の破壊じん性評価	北村 隆行
12	原子シミュレーションによる切欠きを有するアモルファス金属の不安定変形解析	北村 隆行
13	金微細接合部の塑性ひずみ局在化および界面端の応力特異性に関する解析的検討	北村 隆行

14	KCl(001)表面における低速アミノ酸イオンの散乱	木村 健二
15	高温斜め蒸着によるFeウィスカの成長に関する研究	木村 健二
16	高分解能RBSによる歪みSi(001)上のGe成長初期過程および酸化初期過程の観察	木村 健二
17	細胞膜上の誘導ラフト領域での1分子ダイナミクスの研究	楠見 明弘
18	細胞膜上でのシグナル変換ナドメイン形成: 1蛍光分子追跡による研究	楠見 明弘
19	セラミックス焼結体を利用したマイクロ流路における表面粗さの効果に関する研究	小寺 秀俊
20	細胞機能計測用厚膜レジスト製マイクロチップ上での細胞培養に関する研究	小寺 秀俊
21	厚膜レジストを用いた細胞操作用マイクロチップに関する研究	小寺 秀俊
22	傾斜露光法により作製したマイクロチップによる生体構造制御に関する研究	小寺 秀俊
23	要素間相互作用を用いる磁場駆動型マイクロアクチュエータの開発	小寺 秀俊
24	$\text{KNbO}_3\text{-NaNbO}_3$ 系非鉛圧電薄膜の作製および圧電特性の評価	小寺 秀俊
25	MEMSを用いたEnergy Harvestingデバイスの技術動向に関する研究	小寺 秀俊
26	蒸発を伴う液滴の気液界面を通しての熱移動に関する研究	小森 悟
27	風波乱流場での物質移動に及ぼすうねり, 飛散液滴および巻き込み気泡の影響	小森 悟
28	筋骨格モデルを用いた人間の手の機能解析	榎木 哲夫
29	同時多点伝達原理に基づく駆動機構の研究	榎木 哲夫
30	フィードバック変調器を用いた油圧駆動式重作業ロボットの制御	榎木 哲夫
31	人間の作業実演動作に基づいた折り紙ロボットの動作生成法に関する研究	榎木 哲夫
32	習熟効果の先取りを目指したマニュアル組立作業の詳細設計	榎木 哲夫
33	セルフアSEMBルと転写による金ナノ粒子パターン形成とLSPR特性制御への応用	田畑 修
34	バルブレス圧電マイクロポンプ最適設計のための電気等価回路モデルの構築	田畑 修
35	櫛歯型垂直変位電極を応用したSOI静電容量型慣性力センサ	田畑 修
36	光誘起泳動力による微小要素の操作と任意基板への集積化	田畑 修
37	単結晶シリコン薄膜の破壊メカニズムの解明 ~表面酸化の影響評価~	田畑 修
38	再生軟骨の非接触式体積弾性率測定装置の開発に関する研究	堤 定美
39	音波による生体軟組織の低侵襲力学特性測定法の開発	堤 定美
40	相対すべり運動下培養の負荷履歴がin vitro再生軟骨の潤滑特性に及ぼす影響	富田 直秀
41	臨床を考慮した関節軟骨超音波評価法 ~誤差とその低減~	富田 直秀
42	壁面の並進振動を伴う回転平面クエット流の解析	永田 雅人
43	無重力場における回転二重円筒管内に生じる熱対流の非線形解析	永田 雅人
44	重力場中の回転二重円筒管内に生じる熱対流の理論解析および実験観測	永田 雅人
45	スパン方向に圧力勾配を持つ回転平面クエット流の非線形解析	永田 雅人
46	蠕動運動型マイクロポンプ内流れにおける赤血球挙動に関する研究	中部 主敬
47	PIVを用いたマイクロ流路内の電気浸透流速度および電場の計測に関する研究	中部 主敬
48	等密度・非等密度噴流列の流動特性に関する研究	中部 主敬
49	LHDにおける水素H8、H8線の偏光分離同時計測とCRモデルシミュレーション	蓮尾 昌裕
50	放射光X線回折による水素化バナジウムの格子構造の観察	福永 俊晴

51	中性子小角散乱解析のための散乱関数シミュレーション	福永 俊晴
52	MD-CFD連成計算による気泡崩壊の解析	牧野 俊郎
53	高熱伝導性・高吸湿性の室内壁ユニットの開発	牧野 俊郎
54	顧客と競合他社を含む市場環境の多主体性を考慮した生産システム革新投資計画法	松原 厚
55	可変区間型予測証券を用いた暗黙知集約型需要予測法に関する研究	松原 厚
56	検査校正用高精度ピッチアーティファクトの開発	松原 厚
57	運動伝達用変速機構に関する研究	松原 厚
58	非接触駆動型高精度加工機の運動誤差解析に関する研究	松原 厚
59	5軸制御工作機械の幾何誤差同定を目的とした加工試験に関する研究	松原 厚
60	Co-Cr-Mo合金の切削加工に関する研究	松原 厚
61	永久磁石の吸引力を利用したエレベーターロープの非接触制振	松久 寛
62	多孔板を用いた送風ダクトの境界要素法による消音設計	松久 寛
63	空気ばねを利用した海洋開放型アンチローリングタンクの研究	松久 寛
64	コリオリの力を用いたクレーン吊荷のアクティブ制振	松久 寛
65	MRブレーキによるロボットアームの残留振動制御	松久 寛
66	A study on a three-dimensional seismic isolator with a tilt prevention mechanism 水平維持機構付き三次元免震台の研究	松久 寛
67	異方性異種材界面接合端部の特異応力場解析	宮崎 則幸
68	水素が α 鉄中のき裂進展挙動に与える影響の分子動力学解析	宮崎 則幸
69	J積分を用いたナノ結晶分散金属ガラス中のせん断帯伝ば抵抗の評価	宮崎 則幸
70	熱および吸湿乾燥による変形を考慮したLCDパネルの信頼性評価	宮崎 則幸
71	圧電材料の強度特性とその特異応力場解析	宮崎 則幸
72	陽電子消滅分光法による金属中の原子空孔集合体とガス原子の検出	義家 敏正
73	Ni-Sn合金のSn原子と点欠陥の相互作用	義家 敏正
74	凝縮器と蒸発器とが一体化したケミカルヒートポンプの作動試験と基礎特性解析	吉田 英生
75	シールレス平板型SOFC構造の提案と基礎特性の実験的評価	吉田 英生
76	触媒燃焼を熱源とした二重細管型ジメチルエーテル改質器の開発	吉田 英生
77	触媒燃焼の発熱による加速を利用した推進方法に関する基礎的検討	吉田 英生
78	レベルセット法に基づく機能構造物の構造最適化	吉村 允孝
79	形態変更を可能とする形状最適設計法の構築	吉村 允孝
80	製品ライフサイクルを考慮した最適システム設計法の構築	吉村 允孝
81	単純化に基づく機械システムの階層的最適設計	吉村 允孝
82	多孔質弾性論を用いた間質液流れ解析に基づく骨梁リモデリングシミュレーション	北條 正樹
83	骨のイメージベース有限要素法を用いたリモデリングシミュレーション	北條 正樹
84	メゾ構造制御したHAp/PLLA複合材料の変形・破壊特性	北條 正樹
85	The evaluation of chemical bond with new bond orders 新しい Bond order による化学結合の評価	立花 明知

86	Theoretical study of photo-emission from Ga vacancy in GaN crystal GaN結晶中におけるGa空孔からの発光の理論的考察	立花 明知
87	Theoretical study of oxygen vacancies in La ₂ O ₃ and HfO ₂ as high-k materials 高誘電率材料としてのLa ₂ O ₃ とHfO ₂ における酸素欠陥に関する理論的研究	立花 明知
88	Theoretical study of the hydrogen adsorption on AIB nanowire AIBナノワイヤーへの水素吸着に関する理論的研究	立花 明知
89	レーザーとキャビティを同時変調した吸収分光システムの開発	蓮尾 昌裕
90	自動化機械使用時の状況認識を支援する可聴化技術	榎木 哲夫
91	マルチエージェント強化学習による分業形成機構の構成論的研究	榎木 哲夫
92	知覚と行為の協調に着目した移動体操作技能の分析	榎木 哲夫
93	制約指向型交渉によるスケジューリング問題の解決	榎木 哲夫

雪 京都

京都で生まれ育って64年、しかし今年の京都の冬は記憶にないほど変です。2月はほとんど青空を見なく、毎日、雪やみぞれが降っていたような印象。しめった冬です。

短信世話人



京機会事務室より比叡山方面を見る

1. 中国のレアメタルに関する貿易・投資制限的な措置について

<http://www.jetro.go.jp/biz/world/international/column/pdf/050.pdf>

J E T R O 日本貿易振興機構 WTO/FTA Column Vol. 050 2008/1/9

このほど、中国政府は外資企業が対中国投資をする際のガイドラインである「外商投資産業指導目録」の改定版を公表した。ハイテク産業やサービス産業への投資が奨励される一方、希少金属（レアメタル）探査・採掘への投資が禁止項目として新たに追加された。

この禁止について、中国政府は資源節約と環境保護の促進を理由に挙げているようだ。この制限的な動きは、2004年頃から見られるレアメタルの輸出制限的な措置の流れに沿うものだ。レアメタルは自動車、家電、IT製品の製造に欠かせない原料である。「ものづくり大国」日本にとって、世界一のレアメタル生産国である中国のこのような動きは大きな不安材料となる。

2. わが国の都市鉱山は世界有数の資源国に匹敵 平成20年1月11日

- わが国に蓄積された都市鉱山の規模を計算 -

<http://www.nims.go.jp/jpn/news/press/press215.html>

<http://www.nims.go.jp/jpn/news/press/pdf/press215.pdf>

独立行政法人物質・材料研究機構

独立行政法人物質・材料研究機構（理事長：岸 輝雄）元素戦略クラスター長の原田幸明材料ラボ長は、危惧されている将来の金属資源の利用に対して、「都市鉱山」と呼ばれるこれまでわが国内に蓄積されリサイクルの対象となる金属の量を算定し、わが国の都市鉱山は世界有数の資源国に匹敵する規模になっていることを明らかにした。

計算によると、金は、約6,800トンと世界の現有埋蔵量42,000トンの約16%、銀は、60,000トンと22%におよび、他にもインジウム61%、錫11%、タンタル10%と世界埋蔵量の一割を超える金属が多数あることが分かった。また、他の金属でも、国別埋蔵量保有量と比較すると白金などベスト5に入る金属も多数ある。

計算には、海外との輸出入のデータである貿易統計が用いられるが、素材の場合は、部品や製品として輸出入されるケースも多い、特に製品輸出の多いわが国では、製品のかたちで輸出される素材量を見積もっておかないと過大な見積もりとなってしまう。

そこで、この計算では、産業連関表を用いて、部品や製品を通じて輸出される素材の割合を推定し、その割合を、工業統計から得られる部品などへの部材需要に掛け合わせることで、製品としての海外流出量を差し引いて計算した。

現状ではこのような国内の都市鉱山資源が、使用済製品としての随伴物の「廃棄物処理」との“あわせわざ”で本来得られる価値よりも安価に放出されている状況も見られている。それに対し、天然の鉱山の場合に粗鉱から品位の高い精鉱として輸出・利用しているように、都市鉱山資源を都市鉱石としてより積極的に有効活用していくことが必要である。

本件は、1月15日に科学技術振興機構社会技術研究開発センターの主催で行われる、「『循環型社会』領域シンポジウム」においてポスター発表され、3月の鉄鋼協会および資源素材学会の春季講演大会においても発表される。

〒305-0047 茨城県つくば市千現1-2-1
独立行政法人 物質・材料研究機構
広報室 TEL：029-859-2026

<研究内容に関すること>
独立行政法人 物質・材料研究機構
材料ラボ
ラボ長、元素戦略クラスター長
原田 幸明(はらだ こうめい)
TEL：029-859-2602
FAX：029-859-2601

独立行政法人 科学技術振興機構
社会技術研究開発センター 循環型社会領域シンポジウム
<http://www.ech.co.jp/jstsus/>

[事務局]

〒110-0016 東京都台東区台東4-27-5 秀和御徒町ビル8階
株式会社イベント&コンベンションハウス内
TEL：03-3831-2601
FAX：03-5807-3019
担当：笠原・橋本

—— 京機短信への寄稿、宜しくお願い申し上げます ——

【要領】

宛先は京機会の e-mail：jimukyoku@keikikai.jp です。

原稿は、割付を考慮することなく、適当に書いてください。MSワードで書いて頂いても結構ですし、テキストファイルと図や写真を別のファイルとして送って頂いても結構です。割付等、掲載用の後処理は編集者が勝手に行います。

宜しくお願い致します。



機械系学生の親睦会

中島 信也 (SMILE パートナー)

nine_ten_a_big_fat_hen@yahoo.co.jp

昨年末の12月17日(木)に開催された京機学生会執行部 SMILE による新たな企画、「機械系学生の親睦会」について報告する。

普段の研究室生活においてはお互いに声をかけるようなことはないが、授業等でよく見かける間柄にある機械系学生同士が新たなつながりを構築するきっかけを提供することを本企画の目的としたものである。従来の SMILE による企画は、情報を与えることを目的としたものが主であったが、つながりの形成を目的とした本企画が、京機学生会執行部 SMILE の活動理念に大きく寄与するのではないかと考えた。12月中旬という卒業論文や修士論文の執筆に忙しい状況にも関わらず、30名程度の機械系学生に参加した。

1. 事前アンケートによる

<本企画に対しての学生の意見>

図1. ほかの機械系学生と交流する機会の必要性

学生同士が交流する機会が必要かという問いに関して多くの機械系学生が必要と回答している(図1)。

その理由の一例を以下に挙げる。



将来の人脈づくりのため(M2, 変換工ネ科)

同じ機械系でも様々な分野があり、その分野に就いて教えたり、知ったりすることは非常にためになる(M1, 機械理工)

友達を増やすと楽しい(M1, 機械理工)

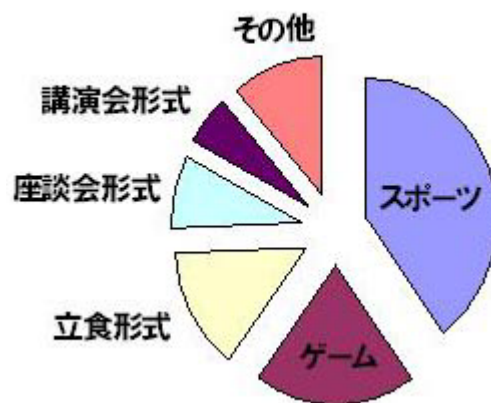
他の学生と情報を共有できるから(M1, 機械理工)

また本企画の実施形態についてのアンケートでは、今回実施した座談会形式のほかに立食形式で行ってはどうかという意見を確認することができた。さらにスポーツやゲームといったものに対する要望が大きいことが判断できる。

そうした回答を行った理由の一例を以下に挙げる。

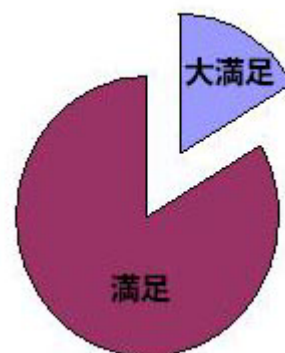
- * 交流が行いやすいから（自然と交流ができる）
（M1，機械理工，対象は同じ研究室，違う研究室，同回生，形式はスポーツ，ゲームを選択）
- * 最近運動不足
（M1，変換エネ科，対象は同回生，上回生，形式はスポーツを選択）

図2. 交流を希望する対象と形式



そのため企画を実現するにあたり発案された運動会などの他の実施形態についても今後検討が必要だと考えられる。その上で本企画の目的を達成するための最適な実施要領を模索しようと予定している。

図3. 本企画に参加した満足度



2, 本企画に参加した学生の感想

参加者学生にとって全体的に高い満足度を与えることができたと判断できる（図3）。

当初は学生側が主に横のつながりを求めていると想定していたが，同回生との交流だけではなく，他の回生とも交流したいという意見を聞くことができた（図4）。

しかし，従来友達関係にあるグループでの参加が多く，新たなつながりを形成する場としてあまり機能していなかったことが反省点として挙げられる（図5）。

したがって多くの参加者が来やすいような時期に開催すること，本企画の意義を参加者学生に前もって認識してもらうことが参加者学生の満足度を高めてゆくためには必要だと判断される。

図4. 第一部(同回生との交流)と第二部(様々な回生との交流)との満足度の比較

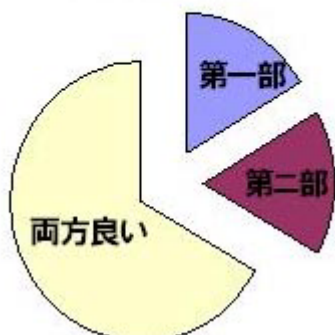
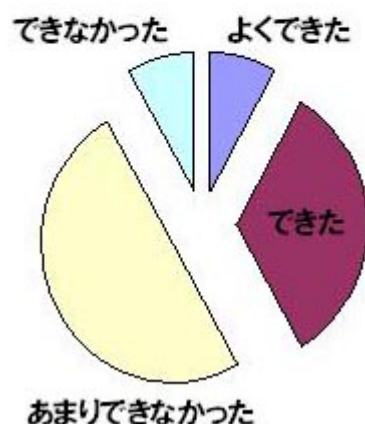


図5. 本企画に参加して新しいつながりを形成できたと感じられる程度



また本企画においては将来のことや研究のことといった話題が中心となっていた。企画の立案段階で挙げられた研究室紹介企画など、今後新たな企画を提案してゆく上での貴重な判断材料を獲得できたと判断できるのではないだろうか。

